



# ライフドアすわ 地域ケア会議通信

発行：諏訪市地域医療・介護連携推進センター ライフドアすわ  
〒392-0027 諏訪市湖岸通り5-12-5 Tel:0266-78-0477  
e-mail : info@lifedoor-suwa.jp

## 令和6年度第3回「諏訪市地域包括ケア推進会議」を開催しました

去る11月22日、諏訪市総合福祉センターにおいて第3回「諏訪市地域包括ケア推進会議」が開催されました。

推進会議は、“本人が望む生活”を守り支えるため、地域医療と介護に従事する専門職の方々が、職種において可能な取り組みを話し合い共有を図るとともに、互いの職を越えて“具体化可能なサービス”について語り合い、地域のより良い包括システムの構築と向上を目指して開催されています。

今回の推進会議は前2回と同じくグループワーク形式により運営され、前回(8月22日)の推進会議で出された「高齢者が自宅で自立した生活を送ることのできるサイクルを具現化するために求められる社会資源」に関する意見に基づき、市地域包括支援センターが作成した以下の模式図をテーマとして、意見交換が行われました。



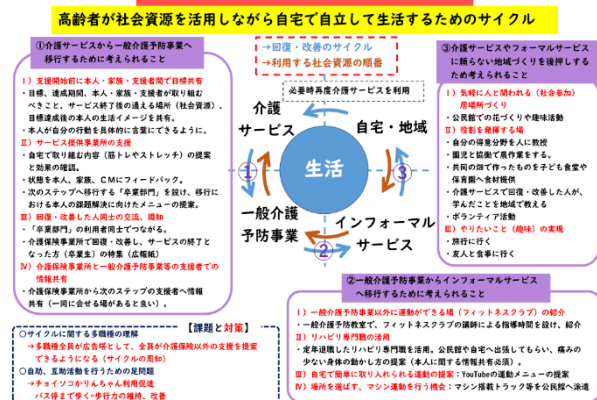
### 【第3回 諏訪市地域包括ケア推進会議】

\*日時:11月22日(金)13:30~15:00

\*場所:諏訪市総合福祉センター 交流ひろば

\*参加者:33名(内訳) 薬剤師5名 介護支援専門員9名 主任介護支援専門員8名 介護福祉士2名 看護婦・保健師2名 リハビリ職2名 社会福祉士1名 生活支援コーディネーター1名 その他3名

R6.8.22 諏訪市地域包括ケア推進会議での意見



### 〈グループワークによる主な意見〉

凡例:○インフォーマルサービスへの移行を促すための手法案ほか、△移行に対する阻害要因等

【サイクルを回すことに関する率直な意見—これはムリ!と思う点があればその理由&解決のために必要なこと—】

△地域で行われている活動が未把握→02○サロン等の市民活動を「元気館」に掲出して見える化する

○サービス利用に係るケアマネジャー(以下、CM)の初期関与・具体的な目標設定と実現期間や行動変容のため取り組むことを明確にする

○社会資源の可視化とその周知

- 改善した方を次の場につないでくれる人がいると良い(CMがつながくことは大変)
- 軽度者は、マッサージ等の展開を本人が模索してくる場合もある
- 改善事例の共有
- △改善による卒業を居宅(事業所)や家族構成等の環境が許さない事例が少なくない
- △改善時の卒業(目標設定)が本人、家族でずれる場合がある。特に家族はサービスの継続を希望される場合は、家族からの苦情となる場合がある。
- 薬局における健康教室・ヨガ・コンサート等の月例開催
- △予防の方が安心して卒業できる場がない→インフォーマルな運動の場への移動を検討するが、移動のADLの

状況からチョイソコかりんちゃん(以下、チョイソコ)の利用ができない方もいる

△軽度な方でも認定がでる現状

○旧老人福祉センターのような子どもと高齢者が集えるサロンの場が欲しい

→○下校後の時間帯に、子どもに関わりを持てる学童保育のような場が地区公民館に欲しい

→○地域のサロン活動に付随して、各地区に専門職を配置し、運動メニューを拡充するなど、参加範囲の拡充が、移動の課題解決にもつながる

△特定のデイサービスへの通所要望だと、インフォーマル・サービスの利用を勧め難い

○向上心のある方の中には、目標を達成し卒業された方もいる

○デイケアの中にサービス拠点を設け、予め定めた期間中にリハビリを実施する。卒業時には高齢者福祉課の担当者から、a 社会保障費の現状、b 重度の利用待機者の存在、c 必要となった際には再度利用可能である点等を説明する

○介護予防の自主活動ができる地域リーダーを養成する

△在介による介護予防教室がなくなったため、地域づくりやリーダーへの支援がうすれた感じがする

○サロンや地域での運動を実施する機会に、認知症と認知症の方への接し方を学び、認知症の方が地域で暮らせる人的環境を構築する

○フィットネス事業者の中にもリハビリ職がいれば、卒業者を紹介することが可能となる

△通所サービスからの卒業を居場所の喪失と受け取る方もいるが、現時点で提案できるものがない

### 【サイクルを廻すために、つなぎの部分(番号①～③)で自らが出来る事、考える事】

○その方の従来の生活を知ることが肝要

○事業所とCMとが一体となって卒業に触れていく

○関係者の集まりに専門職を交え、相談できる場所を構築する

○開業医において、通院者を対象とした少人数のサロンを月例開催し、PTによる運動指導等を実施

○地域内で口に出せない内容を話すことのできる場として、認知症カフェの活用

□図のサイクルや矢印の向きに固執する必要はない。介護→帰宅の方がある一方で、地域と人との関係から限定的な状況を析出してしまう可能性もある

□誰でもが取り組むことのできるサイクルを廻すためのやさしいマニュアルが欲しい

○社会資源の見える化

○CMのついていない方に関する、薬局での相談・社会資源を紹介するフローの構築

○デイサービスで介護保険以外に自主事業も提案し、卒業できそうな人には、徐々に自主事業に移行することを想定している

○利用者の立場を、介護を受ける側から提供する側へと変えていく。できることを、役割としてできる場所へ紹介する

△一般介護予防教室は、回数と会場への移動を考えた場合、介護サービスとの差が大きく、卒業先として提案し難い

○卒業を控えた時期に、CMから地域への戻りについて伝達する

### 【社会資源(インフォーマル・サービス)を充実させるために、自分ができる事、考える事】

○地区の共同浴場は既存のコミュニティ。脱衣場に隣接するスペースを拡充することにより、範囲拡大が具現化可能

□公民館や最寄りのバス停へのアクセスが遠い、狭隘な道路、急坂等の住環境にある方のため、バス停の増設。バス車両の小型化

○一般介護予防教室の交通手段として、ボランティアによる乗り合い車両の運行

○チョイソコの予約(特に帰途の時間が想定できない場合)がもう少し融通がきくと良い

□チョイソコ利用は、バス停への徒歩移動が前提＝歩行機能維持が重要

### 【図の左下に示したサイクルを廻すうえでの問題・課題以外に、問題点と思うこと】

△通所サービス利用の課題は“移動手段”に帰結する

□地域に戻り易くするためのマニュアル構築

○公民館でのデイサービスが開催されれば、移動の軽減と利用拡充が両立できる

### 諏訪市地域包括ケア推進会議にご参加ください

日 時 第4回 令和7年2月20日(木) 13:30～15:00

会 場 諏訪市総合福祉センター 交流ひろば

QRコードまたはE-mailで

申込方法 ※E-mailでのお申込みの場合は、お名前、所属名、職種、電話番号および“参加証のご希望の有無”をお知らせください。



地域包括支援センター TEL: 0266 (52) 4141 (内線 296)

ライフドアすわ TEL: 0266 (78) 0477 E-mail: info@lifedoor-suwa.jp